

今年度の研修計画

大分県集落営農西部支部では、集落営農組織・集落営農を目指す集落を対象に各種研修会を計画しています。毎年の多額な修理費を見直すための大型機械の保守点検研修、会計担当者対象のパソコンソフトによる経営実務研修なども計画しています。代表者だけでなく、円滑な継承のために、役員や次期役員候補者にも参加を呼び掛けてみてはどうでしょうか？

★対象：集落営農に取り組んでいない集落、今後集落営農組織化を目指す集落

9月上旬	集落営農育成活性化研修会	集落営農の意義・事例等を学習、あわせて鳥獣害対策研修・竹林再生事業の説明
------	--------------	--------------------------------------

★★対象：集落営農任意組織

8月下旬	オペレーター研修	大型機械の保守点検研修
9月上旬	集落営農育成活性化研修会	集落営農の意義・事例等を学習、あわせて鳥獣害対策研修・竹林再生事業の説明
9月上旬	第1回集落営農法人人材養成講座	補助事業・融資制度の説明、組織運営方法を学習
1月中旬	経営相談会	税理士による個別経営相談会
※ステップアップを目指す集落営農任意組織は以下の研修会にもご参加いただけます。		
7月下旬	第1回集落営農法人人材養成講座	補助事業・融資制度の説明、組織運営方法を学習
8月上旬	第2回集落営農法人人材養成講座	組織運営のための経営計画策定方法、会計作業の実務事例を学習
11月中旬	第1回パソコン簿記研修	西部管内の主として法人組織対象にパソコンによる複式簿記の操作・決算書作成
11月下旬	第2回パソコン簿記研修	西部管内の主として法人組織対象にパソコンによる複式簿記の操作・決算書作成

★★★対象：法人組織

7月下旬	第1回集落営農法人人材養成講座	補助事業・融資制度の説明、組織運営方法を学習
8月上旬	第2回集落営農法人人材養成講座	組織運営のための経営計画策定方法、会計作業の実務事例を学習
8月下旬	オペレーター研修	大型機械の保守点検研修
11月中旬	第1回パソコン簿記研修	西部管内の主として法人組織対象にパソコンによる複式簿記の操作・決算書作成
11月下旬	第2回パソコン簿記研修	西部管内の主として法人組織対象にパソコンによる複式簿記の操作・決算書作成
1月中旬	経営相談会	税理士による個別経営相談会

大分市等で行われる研修会(大分県集落営農推進本部主催)

7月6日	集落営農法人基礎講座	法人組織において定期的に行う必要のある事務等について学習
7月20日	集落営農法人人材養成講座	法人が共有する経営上の課題について・組織運営のための経営計画策定
7月27日	集落営農法人人材養成講座	会計作業の実務事例・法人組織の効率よい運営の手法・構成員の意識を高めるポイント
9月1日	集落営農組織オペレーター講座	法人オペレーターを対象に大型機械の基本操作研修、保守点検研修

作成・発行 大分県西部振興局農山村振興部 集落・水田班

監修 大分県集落営農推進西部支部

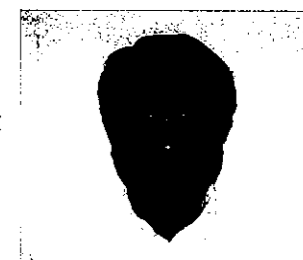
TEL : 0973-22-2585 FAX : 0973-23-2219

集落営農かわら版

平成23年6月15日 VOL.16
大分県西部振興局農山村振興部
大分県集落営農推進西部支部

部長挨拶

5月1日付けで着任いたしました、吉田清士です。出身は日田市豆田町です。好きなものはお笑い(吉本興業)です。担当は明るい職場づくりです。西部地域は厳しい自然条件のもとにあります。皆さんと力を合わせ、活力ある集落づくりに頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



新しい集落営農組織のご紹介

《九重町・中須集落協定》平成23年3月17日設立

中山間地域等直接支払交付金を使い鹿の被害対策を皆でやろうということで機運が高まり、集落営農に関する勉強会も重ねてきました。今ある中山間協定組合の規約を見直し、個人の農機を借り上げる形で作業受託を行い、集落の農地を守る体制整備ができあがりしました。今後も鹿防護柵を引き続き設置し、集落全員で管理して行く計画です。



《九重町・上旦作業受託部》平成23年3月31日設立

上旦集落では、中山間地域で高齢化が進み集落の将来に不安を抱えていました。隣の集落で集落営農組織が立ち上がったことに触発され、自分達の集落でもできることがないかと勉強会を行いました。アンケートを実施することで、集落営農の理解者やオペレーター候補者がいることもわかり、組織設立へと動きだしました。できることから始めようと、中古のトラクターと畦塗り機を中山間地域等直接支払交付金で購入し、中山間協定組合の下部組織として作業受託部を設立しました。今後はしっかりした役員の下で隣の集落との連携も視野にいれ、できることから活動を行っていく計画です。

集落営農組織を作るわけは・・・

近年、県内の多くの集落で、後継者不足と高齢化から、耕作放棄地が目立つようになってきました。米価の低迷、農機具・肥料・農薬価格の高騰なども個人経営に大きな影響を及ぼしています。また、鳥獣害なども大きな問題となってきました。こういった、一戸では解決できない地域の農業のいろんな問題を集落のみんなの知恵と力を合わせて解決し、豊かな集落づくりにつなげることが集落営農です。転作作物を中心に担う組織や水稻部門の機械の共同利用から始めた集落や、話し合い組織を作って鳥獣害対策から取り組みを開始した集落もあります。取り組みが進んだ集落では、水稻・麦・大豆の作業受託を行い、コスト低下が可能になったり、更に法人化し、将来にわたる担い手が出来て、耕作放棄地の解消につながった集落も増加しています。

まだ、集落営農組織が出来ていない集落では、話し合いから始めてみませんか。その中で、地域で何が出来るか、

皆さんの知恵を出し合っ解決していきませんか。組織化が出来た集落では、将来を見据えてステップアップを考えてみませんか。

大分県の集落営農の実態（集落営農法人の経営アンケートより）

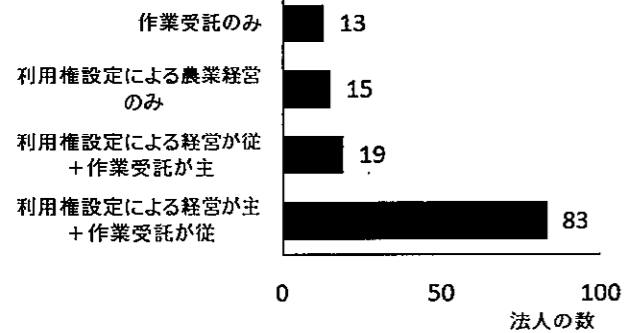
平成22年度に行われた集落営農法人の経営アンケートの結果から、法人組織の経営実態をお知らせします。アンケートには132法人から届いた回答を使用しています。県内の組織がどのような状況にあるのか、自分の組織との違いを比較検討してください。また、任意組織や未組織の集落は法人の状況を見て参考にしてください。

収量がトップクラスの組織は、組織として実施すべきことをしっかり行っていることがわかります。

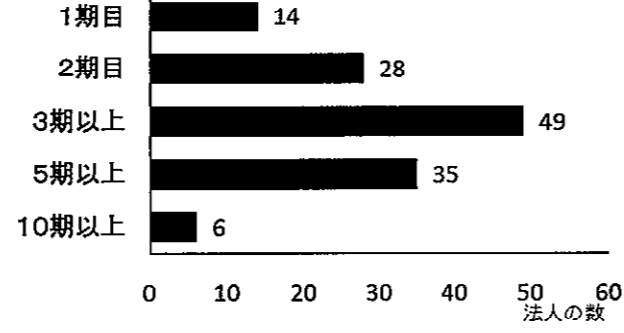
収量が県下トップクラスの組織（集落営農法人）は、どのような経営形態なのか？

分類	組織名	収量		経営状況	毎月の作業計画	ほ場マップ作成	生産原価の把握	次年度改善計画	機械の清掃・点検
		品目	単収						
収量最高値を選択した5法人	A	米	550kg以上	順調	あり	一部ほ場	している	○	たまに
		麦	480kg						
	B	大豆	270kg	順調	あり	全ほ場	している	○	毎回
	C	大豆	270kg	順調	あり	全ほ場	している	○	毎回
	D	米	550kg以上	順調	あり	全ほ場	していない	○	毎回
E	米	550kg以上	順調	あり	全ほ場	している	○	毎回	
	大豆	270kg							

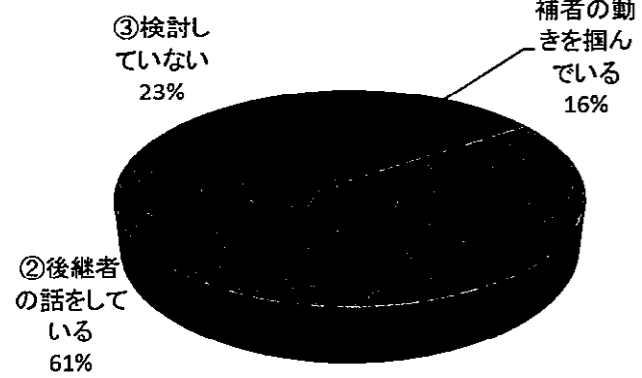
営農形態



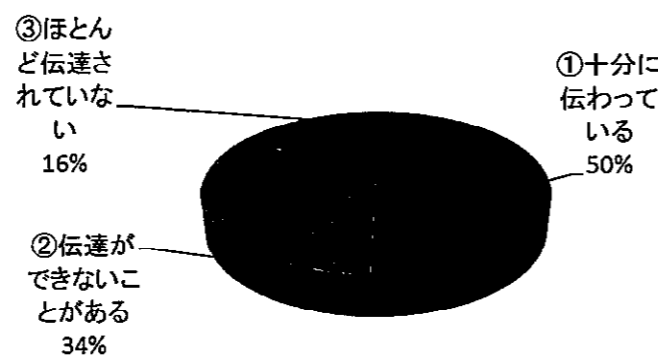
法人になって何期目か



組織の後継者対策は十分ですか



回覧板等で役員会の決定事項は構成員に伝達されていますか



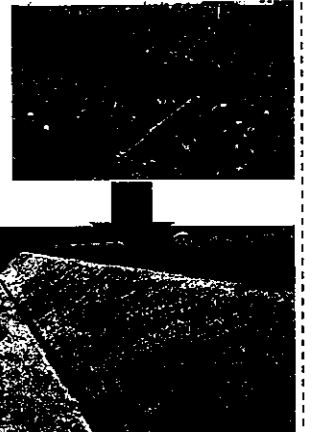
これ以外にも、「作業の開始・終了時に機械の点検洗浄を行う法人が多い」「役員会は毎月1回以上開催、組織の運営方針や理念が明文化され構成員に理解されている」「ほ場マップの作成を行っている」「部門別の生産原価を把握している」「大型特殊免許所収オペレーターがいる」「役員の役割分担はほぼ出来ている」「毎年実践的な経営計画を立てている」「経営・作業計画が出来て、作業が着実に出来ている」ことが経営の安定につながっているようです。

畦畔管理省力化技術のご紹介

年々、水田畦畔の管理に苦慮している地域が増えています。このような状況を受けて全国各地で、畦畔管理の省力化技術が開発されてきております。西部管内においても技術導入している集落営農組織もあり、その効果が十分に発揮されているところです。今回はそのいくつかの技術を紹介いたします。

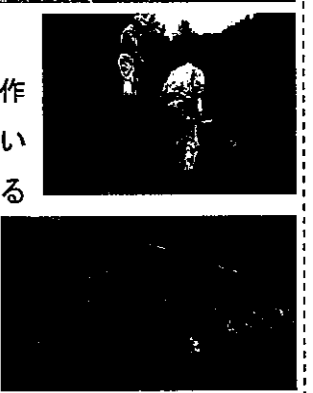
①グランドカバープランツ「センチピードグラス」を活用した省力化技術

「センチピードグラス」とは、芝草の一種であり草丈が短く地表の被覆が早いことから、畦畔に被覆させて草刈りの省力化を図ります。繁茂すれば草丈は10cm程度なので草丈の高い雑草を抑えることができ、定着できた地域では労働時間や労力の負担が軽減されています。種子代や播種時の資材・労賃など初期投資はかかりますが、定着すれば10年以上は繁茂すると言われてますので長期的な省力効果が期待されます。すでに日田市、玖珠町の集落で取り組みは始まっていますが、定着が図られた圃場では草刈り作業が大幅に軽減されています。



②畦畔管理作業道の設置による省力化技術

急傾斜で高い法面での草刈りは重労働に加えて危険が伴う作業です。そこで、法面に作業道を設置する（幅25cm程度の小道をつくる）ことで作業効率・安全性の向上を図るといいう技術です。作業道設置で心配されるのが法面の崩壊ですが、この作業道では植生のある法面での崩壊の危険性はないと実証されています。作業道設置には専用機械が必要です。本年、実証圃設置する計画なので、その状況をお知らせしていきます。



③雑草抑制おまかせネットの活用による省力化技術

これは法面に直接ネットを敷設することで雑草繁茂を抑えます。耐久年数は5年と言われてますが、実際は7,8年くらいと思われます。ネットの敷設作業に労力がかかることと資材費がかかりますが、即効果が現れます。



水稻栽培情報(対象期間:分けつ期～出穂期)

<水管理>有効基数が確保され次第、中干しを行いましょ。ひとめぼれ、コシヒカリ、ヒノヒカリの中干し開始の目安は、坪60株植えで基数「18本/株」程度になった頃です。基数が不足している圃場では浅水管理を行い、基数確保に努めましょ。穂ばらみ期から開花期にかけては、稲の水分要求量が高まることから湛水管理を行い、その後は根の活性化を図るため、間断灌水に切り変えましょ。

<穂肥>穂肥は施用適期を逃さないよう圃場をよく観察し、出穂前18日～20日（幼穂長約1cm）に施用ましょ。葉色の濃い圃場では、穂肥を減肥ましょ。

<防除>ひとめぼれ、コシヒカリ、ヒノヒカリは、いもち病には弱いので、いもち病が発生したら、早めに防除を行いましょ。但し、特別栽培米については栽培暦を遵守して下さい。ひとめぼれ、コシヒカリについては、カメムシの適期防除を行いましょ。病害虫発生予察情報「<http://www.jpnpn.ne.jp/oita/>」などもご参照ください。